

櫻

～けやき～

成田市立中台中学校 学校だより

文責：内田 淳

令和7年 3月7日(金) Vol.44

学校教育目標 『自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成』

「仲間も自分も大切に」「感動・感謝を大切に」
「団結・協力を大切に」「命を大切に」



【ホームページへ】

まごころを君に

3日(月)、待ちに待った「3年生を送る会」が行われました。1、2年生はこの日のために、3ヶ月も前からこつこつと試行錯誤を重ね、練習してきました。目標は、お世話になった3年生に感謝の気持ちを伝え、よろこんでもらうこと。その一心で、在校生が一丸となって会場を大いに沸かせました。



【1年生は、「コントと語りで振り返る3年間」。語り手が3年間の出来事を次々に紹介し、その合間に3学年の生徒や先生をネタにしたコントが展開していきます。写真中央は先生をネタにした「武勇伝」。写真右は、とある先生が初めて担任を持つ期待と不安を、天使と悪魔と謎の生き物がそれぞれに勝手なことをささやいて迷わせるというもの。その他のコントも全て非常にテンポがよくて、上手でした。たくさん笑わせたあとは、合唱と群読でしみじみとした雰囲気の中、感謝の気持ちと旅立ちへの祝福の言葉を伝えることができました】



【2年生は、卒業式を控えた2人の先生(写真中央)のそれぞれの頭の中(写真左、右)では、「怒り」や「喜び」などの感情があだこうだと言いながら、3年間の思い出を語り合うという劇。大道具、小道具、衣装、音響、照明と非常に練られていて感心しました。声優の生徒も役者の生徒も、タイミングや表現が絶妙ですばらしかったです。冷静な先生と熱血な先生の対比がたいへん面白く、見ていて「あるある」と頷いてしまうような場面ばかりでした】



【1、2年生は最後に力を合わせて「プレゼント」を合唱。3年生は、じっと聴き入っていました】

1、2年生だけでつくりあげた初めての行事は、大成功を収めました。ほんのわずか2時間程度の行事のために、何十時間も費やして頑張ってきました。うまくいなくて悩んだり、部活や学習との両立に焦ったりと、心が揺れ動いたことは、それぞれにあったはず。それでも、短い期間で計画的に取り組むことや、協力すること、少しずつ完成していく様子を喜び合うことなど、たくさんの感動もあったはず。

そして、本番を迎えると、3年生たちは、待ってましたとばかりに、手を叩いて笑い、歓声を上げて喜んでくれました。そして、合唱にじっと耳を傾け、余韻を惜しむかのように味わい、最後には万雷の拍手を送ってくれました。3年生のために頑張ってきたことは、そのまま、自分たちのためになっていることに、1、2年生は気付いたことでしょう。

振り返ってみると、練習中から楽しそうに取り組む様子が見られました。きっと頭の中には、練習の段階から、うまくいく完成予想図ができていたのかもしれない。



【カツラを試着して、長さを調整中。座ってじっとしているのは、感情を演じる男子。このこだわりが、すばらしい劇に結びつく】



【会場を彩る装飾は、お花紙をチョウチョに仕立てて貼り付けました。バスケのゴールも上手に使って、華やかになりましたね】



【名物企画、「中学生の主張」で「なーにー！」と叫ぶバレエ部の皆さん。2年生の主張も面白くて、会場も爆笑でした】



【テンポよくコントを演じる陰にたくさんの努力あり。プロの動画を繰り返し見て、自分たちの演技も録画して…芸の道を極めます】

3年生は、我を忘れて楽しんでくれた一方で、お礼の合唱「正解」を、たいへん美しく響かせてくれました。1、2年生が努力の成果を大いに発揮してまごころを伝え、3年生もまた、全力でまごころを返し、最後には全校生徒が「時を越えて…」を合唱。来週・13日(木)の卒業式が、この全校合唱を聴く最後の機会かと思うと、こみ上げてくるものがあります。こうして、感動のうちに3送会は閉幕しました。

3年生は思い出をたどって、残りの日々を足取りを確かにし、1、2年生は自信を付けて、新年度を迎える準備をまた一歩進めることができました。すばらしいひとときでした。

全校合唱の「時を越えて…」にある「ゴールではなく、スタートだった」という趣旨の歌詞は、この時期の学校生活によく当てはまると感じています。これまで、体育祭、合唱、修学旅行、入試と、様々なゴールを目指して頑張ってきた3年生は、一山越える度に「ここからまたスタートなんだな」と思ったのではないのでしょうか。1、2年生もまた然り。ほんとうのゴールは、きっと人それぞれなのです。そして、今はまだ、何がゴールかも分からないまま、歩き続けているのかもしれない。これからも、本校の生徒たちが、立ち止まったり座って一休みしたりしながらも、着実に歩み続けていけるよう心から願っています。

ラストダンスは仲間と



3年生女子の体育も、他学年と同じくダンスの発表会を行いました。振付はもちろん、選曲もグループに任されていて、チームごとの特色が表れていました。また、ダンスを習っている人や、趣味のように普段から踊っている人もいて、細やかな動きもキレがよく、かっこよかったです。練習の時からあちこちで笑い声が聞こえ、楽しそうに取り組んでいる姿が印象的でした。

この学校だよりが出る頃には、一人ひとりの進学先も決まっています。このメンバーで踊るのは、おそらくこれが最後ではないでしょうか。こうして、たくさんの「義務教育最後の〇〇」を通過して、3年生は卒業に向かっていきます。

「生」と「性」を学ぶ

5日(水)、3年生は「命の授業」と題して、助産師の方を講師にお迎えして、講話を聞きました。大人の階段を上りつつある生徒たちは、互いを尊重する人間関係づくりや、性感染症や性暴力などのリスク、妊娠・出産・育児の意義などについて、様々な内容を学びました。

生徒たちが、この授業で分かったことを生かして、仲間も自分も尊重し愛おしむ、素敵な大人になれるよう心から祈っています。

また、多くの生徒が、今日まで自分が「育ててもらったこと・生かされてきたこと」に気付くことが

できました。「自分が生まれた頃のことに関心をもった」と感想文を書いた生徒も、少なくありませんでした。折に触れて、ご家庭でも、話題にしてみてもいいのではないでしょうか。

保護者の皆さんが実体験として話す、たいへんだったことや、うれしかったことなど……子どもたちは、しみじみと耳を傾けることと思います。



【抱っこしているのは3000gの赤ちゃん人形。首が据わっていません。生徒は、おっかなびっくり抱っこして、柔らかな感触を確かめていました。ほんのわずか15年前は、皆さんもこの人形のような赤ちゃんだったんですが……覚えているでしょうか】

この赤ちゃん人形の足を、愛おしげに触っている人がいました。中学生の足の1/3程度しかない柔らかい足は、長い歳月を経て、大きく、たくましく、しなやかになり、ボールを蹴ったりステップを踏んだりしながら、しっかり体を支えています。弱くてはかない存在だった、15年前の「かつての赤ちゃん」たちは、15歳の春を目前にして、その足で立派に未来に進み出そうとしています。

あたりまえの「有り難さ」

今から14年前の、平成23年3月11日、午後2時46分に、東北地方を中心に発生した「東日本大震災」は、最大震度7を記録しました。震度7は、次のような被害の目安が示されています。

- 立っていることが、できないほどの揺れ
- 家具のほとんどが、倒れたり飛んだりする
- 窓ガラスや壁のタイルが、壊れる など

この災害は、生命や財産だけでなく、多くの人々の生活に、様々な影響を与えました。私が体験した、ほんの一例を紹介します。

◇電気、ガス、水道が止まった。

発電所が被災したため、電気が十分に供給できず、暖房や照明などに大きな影響がありました。ネットも繋がらなくなり、スマホも充電ができず、家族との連絡も取れなくなりました。もちろん、電車も動きません。道路の信号機も、消えたままでした。

◇道路や線路が壊れて、自動車や電車が走れなくなった。

地割れ、液状化、地盤沈下などにより、交通網がマヒしました。被災者は避難できなくなり、救助隊やボランティアは、被災地に近づくことができませんでした。壊れていない道路には、避難する自動車や物資を運ぶトラック、緊急車両が集中し、大渋滞が起きました。

◇スーパーやコンビニなど、あらゆる店から、商品がなくなった。

トラックなどが走れなくなったので、お店の商品は、ほとんど空っぽ。ファミレスやファーストフード店なども、食材が届かないので調理ができず、営業できませんでした。新鮮な食材が手に入らず、家庭でも苦労しました。ガソリンスタンドも販売が制限され、給油を待つ渋滞ができました。

「いつでも、電気が使えて、水が出て、温かいお風呂に入れる」「店に物があふれていて、いつでも買い物や食事ができる」この「あたりまえの生活」とは、実は、とても貴重なものなのです。私たち一人ひとりが、「あたりまえの生活」ができることに感謝して生活しなくては、とあらためて思います。

3月11日は、14年前の大災害を、日本中で思い、午後2時46分に合わせて、1分間、目を閉じて、静かに祈り、思いやり、今の生活に感謝し、これからも頑張ることを誓う日なのです。この日の意味を、いつまでも、大切に受け継ぎたいものです。

誰でも最初は1年生

8日(土)、バスケ部が1年生大会に臨みます。試合中の役割を意識して、団結して頑張ってくれることを期待します。

上級生の背中を追いかけながら頑張ってきた各部の1年生も、まもなく2年生。1ヶ月後の4月10日には、新1年生の仮入部も始まる予定です。理想の先輩像、理想のチーム像を思い描きながら活動に取り組み、新入部員を笑顔で迎えられるように、頑張りましょう！

